

# 序

胸部単純X線写真や胸部CTといった胸部画像の読影は、「なんだか難しそう」とか、「よくわからない」と敬遠されることも多いです。しかし、ここ数年研修医の皆さんと一緒に胸部の画像を見ていて感じていることがいくつかあります。

- ①多くの診療において胸部画像の必要性を強く感じている
- ②一通り読影方法はもちろん知りたい
- ③ゆっくり話を聞くと目の前の画像にさまざまな疑問をもって、「なぜこのように写っているのか理解したい」という好奇心や探究心が強い

特に③は真摯にフラットに「これは何だろう?」と見ているので、こちらが流してしまうような所見の指摘にも目を留め、探求心をもって読影しています。それが時に思ってもいなかった所見の指摘や診断につながることもあり、こちらも気持ちを新たにさせられることもあります。

そこで最近では、レポートの診断欄に「異常所見ありません」「特記すべき所見なし」と書かれていて、レポートとしては大きく問題はないものでも、字面の確認だけではなく画像で気になった点（異常所見ではなく“気になる点”）を、少しでも時間をとって研修医の先生とディスカッションするようにしています。“気になる点”はすべて解決するわけではありませんが、疑問に感じたことが自分のなかで納得できると研修医の先生の画像所見への理解がぐっと深まり、もっと知りたいという興味が湧き、目に見えて画像へのかかわりが変わっていくのを感じます。胸部画像に対する興味やモチベーションは皆それぞれ異なりますが、このような変化はほぼ全員に感じられ、そういった気持ちを大事にしたいと感じるようになりました。初期研修の場合では特に研修期間は短く、多くのことを知識として詰め込むことは難しいです。しかし、このような画像へのかかわり方の機会を得ることで画像への探究心をもち続けて、ひいては自分が担当する患者さんや画像を読影した患者さんに還元される読影力を得てほしいです。

そこで今回の特集は、研修医や若手医師の皆さんにぜひ胸部画像の読影の第一歩目を踏み出してほしいと考え企画しました。内容は基本的な胸部画像の読影方法、研修医の先生が多く目にする疾患や、遭遇する機会は多くないものの知っておかなければならない疾患および病態を中心にしています。日々研修医とともに診療したり、指導に携わることが多い先生方に、胸部画像の読影を始めたばかりの先生方が、疑問に感じがちな点を含めご執筆をお願いしています。また今回は、読影の入り口に入りやすいような内容や平易な解説もお願いしています。したがって、より高度な内容に興味をもった場合には、成書、雑誌、論文などで勉強したり、上級医に尋ねたりしてください。

胸部画像の読影は実に興味深いです。本書が皆さんの「食わず嫌い」を改善して、今後の診療に役立てることを切に願っています。

2022年4月

香川大学医学部放射線医学講座  
室田真希子